

## 緒 言

福井縣統書計ハ縣下行政其ノ他各般ノ統計ヲ蒐集シ、既往現在ノ狀勢ヲ大觀セムカ爲毎年之ヲ刊行シ、今ヤ昭和九年ノ統計書ヲ編纂スルニ至レリ、本書編ヲ分ツニ其ノ一ヲ「土地戸口等」其ノ二ヲ「學事」其ノ三ヲ「産業」其ノ四ヲ「警察衛生等」ト爲ス。

各編收録スル資料ハ主トシテ市町村及學校ノ報告並廳内ノ調査ニヨリ或ハ關係官公署會社等ノ供給ニ求メタルモノアリ。蓋シ世運ノ推移學術ノ進展ニ基キ統計ノ用益多キヲ加フ是ヲ以テ調査ノ正確ヲ期スルト共ニ表章方法ヲ更メ或ハ新ニ收録シタルモノ尠シトセス。然リト雖尙遺憾ナキヲ保セサルニ依リ漸次之カ改善ニ努メ時世ノ要求ニ應セシムル所アラムトス。

昭和十一年三月

福井縣總務部

# 昭和九年福井縣統計書 第四編

## 凡 例

本編ハ昭和九年又ハ昭和九年度ノ事項ヲ掲載シタルモノナリ、然レトモ其ノ以後ノ事項ニシテ調査ヲ了ヘタルモノハ之ヲ掲載シ又已ムヲ得サルモノハ昭和八年若ハ昭和八年度以前ノモノヲ掲ケタルモノアリ。

編中何年度ト記スルモノハ其ノ年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル一箇年度、何年末ト記スルモノハ其ノ年十二月三十一日現在、何年度末ト記スルモノハ翌年三月三十一日現在、何年ト記スルモノハ其ノ年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル一曆年間、何日ト記スルモノハ其ノ日現在ノ意ナリ。

前數年ノ事項ヲ列記シタルモノハ本表ノ數字ト其ノ質ヲ同フシ即チ本表現在數ナルトキハ比較數亦現在數、一年間又ハ一年度間ノ數ナルトキハ比較數亦一年間若ハ一年度間ノ數ナリ。

數位ハ千位百萬位ニ「,」小數アルトキハ一位ニ「.」ヲ附シ不詳ノモノハ「?」一位ニ滿サルモノハ「0」全く無キモノハ「-」ヲ填入セリ。

金錢ニ關スルモノハ概ネ四捨五入ノ法ヲ用ヒテ圓位ニ止メタリ。

## 昭和九年 福井縣統計書

## 第四篇 (警察衛生等) 目次

總說	1
<b>警 察</b>	
1 警察部職員(現員)	3
2 警察署職員配置(定員)	3
3 警部補・巡查勤続年數及俸給	4
4 警部補退職料遺族扶助料及諸給	4
5 巡查退職料遺族扶助料及諸給	5
6 巡查採用及教習	5
7 警察上ノ賞與	5
8 警察共濟組合救濟金	6
9 警察上死傷者	6
10 警察電話	7
11 令狀執行件數	7
12 諸犯罪發生及檢舉件數	8
13 諸犯罪及檢舉人員	8
14 諸犯罪別檢舉件數	9
15 未成年者喫煙禁止法違反	9
16 檢 視	10
17 檢 證	10
18 檢視者及檢證者	11
19 盜 難	11
20 盜 難 物	12
21 盜難物發見	12
22 賊捨置物	13
23 變 死	13
24 自 殺 者	14
25 年齡ニ分チタル自殺者	15
26 原因ニ分チタル自殺者	15
27 救 護	16
28 密賣淫及媒合容止者處分	16
29 行政執行處分	17
30 説諭及保護	17
31 取締諸營業者數	18
32 遺失物處分	18
33 火 災	20
34 火災原因	20
35 火災損失及死傷	21
36 消 防 組	22
37 銃砲及火藥類免許賣買	22
38 狩獵免許狀下附人員	23
39 捕獲鳥獸數	23

40 貸座敷及藝娼妓數	24
41 演劇興行	24
42 寄席興行	24
43 活動寫眞興行	24
44 質屋及質物	25
45 質屋及古物商取締法ニ依ル徵收物件	25
46 集會及結社	25
47 宿屋宿泊人員	26
48 醫 師	26

## 衛 生

49 齒科醫師	27
50 藥劑師・藥種商・製藥者・阿片販賣者	28
51 賣 藥	28
52 入齒抜齒口腔治療接骨及鍼灸按摩	29
53 看 護 婦	29
54 產婆看護婦理髮試驗	30
55 產 婆	30
56 鍼術灸術按摩術試驗	30
57 トラーム檢診成績	31
58 トラホーム患者	31
59 トラホーム患者治療	32
60 結核健康診斷成績	32
61 傳染病患者	33
62 傳染病患者死者年齡別	33
63 娼妓健康診斷	34
64 花柳病患者	34
65 中 毒	36
66 屠殺檢査	36
67 衛生試驗	37
68 病 院	37
69 病院患者病類別	38
70 傳染病院及隔離病舎	39
71 藥吊巡視	38
72 種痘ノ一(第一期)	40
73 種痘ノ二(第二期)	40
74 娼妓病院	41
75 衛生ニ關スル諸犯罪處分別	41
76 死亡總數ト結核病死亡者數トノ比較	42
77 マラリヤ患者年齡別	42
78 マラリヤ治療方法別	43

工 場

79 工場臨検.....43

80 適用工場數年次比較.....44

81 警察署別適用工場數.....45

82 警察署別適用工場職工數.....46

83 常時職工十人未満使用ノ危険及衛生  
上有害ナル工場竝職工數年次比較.....48

84 寄宿舍ノ設アル工場數及寄宿職工數.....48

85 職工扶助金額.....49

86 工場主ノ管理スル職工貯蓄金.....49

87 工場災害.....50

88 工場法違反.....52

89 取締原動機.....52

健康 保 險

90 勞働者災害扶助法適用事業數.....53

91 勞働者災害扶助法適用事業ニ於ケル使用勞働者數.....54

92 工場事業場事業及被保險者數.....55

93 業應別工場事業場事業及被保險者數.....55

94 保險給付.....56

95 標準報酬等級別被保險者數.....56

96 被保險者數別工場事業場及事業數.....56

97 傷病類別療養給付件數日數及休業日數ノ一(業務上).....57

98 傷病類別療養給付件數日數及休業日數ノ二(業務外).....57

99 死亡原因傷病類別數.....58

雜

100 新聞及雜誌.....59

# 總 說

## 警 察

### 警 察 區 劃

昭和九年未現在ニ於ケル縣警察行政區劃ハ其ノ監督廳タル警察部ノ下ニ警察署十三、警部補派出所三、巡查部長派出所十六、巡查派出所二十三、巡查駐在所百五十九ヲ置キ一市百七十七箇町村ノ警察事務ヲ管理セシメ以テ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ縣民ノ福祉増進ニ努メツ、アリ。

### 警 察 官 吏

昭和九年未現在ノ警察官吏ハ警察部長一人、警視四人、專任警部二十二、警部補三十一、巡查部長八十一、巡查四百五人ニシテ定員ヨリ警部補一人ノ減、巡查部長六人ノ増員ニシテ巡查十六人ノ減、差引十一人ノ減員アリ。

### 警部補、巡查勤続年數

昭和九年未總數五百七十七人中五年以上十年未滿百七十七人(三分四厘)最多ニシテ之レニ亞ク十年以上十五年未滿百十一人(二分三厘)二年以上三年未滿四十六人(九厘)一年以上二年未滿四十六人(九厘)十五年以上二十年未滿四十二人(八厘)三年以上四年未滿四十一人(七厘)四年以上五年未滿二十三人(四厘)二十年以上二十五年未滿十七人(三厘)二十五年以上九人(二厘)一年未滿五人(一厘)等ナリ。

### 火 災

昭和九年中ノ火災度數 268 件、内失火ハ 253 件、放火 7 件、雷火不審火 8 件ニシテ其ノ損害見積額ハ 286,231 圓ナリ。之カ原因別ニ見レバ炬燵ノ不始末 48 件、焚火ノ不始末 28 件、取灰ノ不始末 26 件、乾燥室ノ不始末 25 件、弄火 20 件等ナリ。

### 消 防 組

昭和九年中ノ消防組ハ 174 組、部數 567、人員 19,814 人ヲ以テ組織ス。而シテ之等消防組ニ備付ケラレタル重要機械器具ハ自動車唧筒 14 臺、ガソリン唧筒 197 臺、蒸氣唧筒 10 臺、腕力唧筒 690 臺ナリ。

## 衛 生

### 醫 師

昭和九年未現在ニ於ケル醫師ノ總數ハ四百二十六人(内女醫十三人)ニシテ醫師一人ニ對シ現在人口ハ一、千四百五十一人ニ當レリ。而シテ之カ分布狀況ヲ觀ルニ福井市百九人、坂井郡五十八人、今立郡四十四人、大野郡三十五人、敦賀郡三十二人ハ多キ地方ニ屬シ大阪郡五人最モ少シ。之レヲ經歷別ニ觀レバ大學卒業百七十七人(二割七分四厘)官公立專門學校卒業二百二十一人(五割一分七厘)試験及第七十九人(一割八分五厘)其他九人(二分四厘)ナリ。

### 齒 科 醫 師

昭和九年未現在ニ於ケル齒科醫師總數ハ百一人(内女齒科醫

師五人)ニシテ前年ニ比シ四人増加セリ。其ノ經歷ハ官公私立專門學校及外國學校卒業者ヲ併セ六十二人、試験及第三十九人ナリ。

### ト ラ ホ ー ム 檢 診

昭和九年中ニ於ケル「トラホーム」檢診人員ハ六萬六千六百八十五人ニシテ内患者ト決定セル人員ハ五千四百五人ナリ。而シテ檢診人員百ニ對スル患者ハ八人一〇(前年度八人一四)ノ割合ナリ。患者ト決定セル人員中重症三百十五人(五分八厘)輕症四千八百十三人(七割七分四厘)疑似症九百七人(一割六分八厘)ナリ。

### 傳 染 病 患 者

昭和九年ニ於ケル傳染病患者數ハ三百三十人ニシテ前年ヨリ五十四人減少セリ。而シテ膈チフス最モ多ク百六十八人(五割〇分九厘)ヲ占メ「デフテリア」八十八人(二割六分七厘)之ニ亞キ赤痢五十二人(一割五分八厘)猩紅熱十三人(三分九厘)「バラチフス」八人(二分四厘)流行性腦脊髄膜炎一人(三厘)ナリ。又各患者百人中死亡者ノ割合ヲ觀レバ次ノ如シ。

膈チフス	21.42	デフテリア	18.15
赤痢	44.23	猩紅熱	15.33
流行性腦脊髄膜炎	100.00	バラチフス	0

### 花 柳 病 患 者

昭和九年中病院又ハ開業醫ニ於テ取扱ヒタル花柳病患者ハ一萬一千二百九十六人ニシテ内男七千七百五十一人(六割八分六厘)女三千五百四十五人(三割一分四厘)ナリ。之ヲ前年ニ比スレバ男五百七十四人(七分二厘)女十一人(三厘)共ニ何レモ増加シ總數ニ於テ五百八十五人(五分四厘)ヲ増加セリ。

### 病 院

昭和九年未現在病院數ハ十五ニシテ前年ニ比シ三ヲ増加シタルハ診療所取締規則制定ニ伴フ。年内患者總人員ハ七萬七千九百人ナリ。之ヲ前年ニ比スルニ一萬五千九百九十九人ノ著シキ増加ヲ見タルハ病院數増加ニ依ル。患者ヲ病類別ニ觀レバ神經系及五官病一萬九千三百七十五人(二割四分六厘)最モ多ク呼吸器病一萬四千四百九十人(一割八分六厘)泌尿及生殖器病一萬一千二百五十七人(一割四分四厘)消化器病一萬四百八十九人(一割三分四厘)ヲ主ナルモノトス。而シテ呼吸器病ノ内肺病ハ二千二百二十人ナリ。

## 工 場

### 適 用 工 場 及 職 工 數

昭和九年十月一日現在ニ於ケル工場法適用工場總數ハ二千四百十九工場ニシテ中工場法施行規則第二十七條ニ依ル法ノ一部適用工場ハ一千百十三工場ナリ。之等工場ヲ業務別ニ依リ大別スレバ染織工場二千三十五、機械器具工場九十六、化學工場六十二、飲食物工場十、雞工場百六十一、特別工場五十五ニシテ染織工場ハ總工場數ノ八割四分弱ヲ示ス。而シテ之ヲ前年ト比較スルニ總工場數ニ於テ二百五十八中染織工場ハ

# 總 說

二百七十ノ増加ナリ。

尙之等工場＝使用セラルル職工數ヲ見ル＝四萬五千三百二十八人ニシテ内工場法ノ一部適用工場＝使用セラルルモノハ六千六百六十六人ナリ。又之等職工ヲ業務別＝大別スレバ染織工場＝使用セラルル者四萬二千四百八十六人、機械器具工場七百七十八人、化學工場千二百九十九人、飲食物工場七十六人、雜工場六百十九人、特別工場二百四十人ニシテ染織工場ノ職工ハ全職工ノ九割四分弱ヲ示ス。又之ヲ前年＝比較スル＝總職工數＝於テ五千九百九十二人中染織工場＝於テ五千八百四十五人ノ増加ニシテ工場數及職工數共ニ逐年増加シ之ヲ五年前ト比較スルトキハ隔世ノ感アリ。

	工場數	職工數
昭和五年	1,633	29,189
昭和九年	2,419	45,328

## 工場災害

昭和九年中＝於ケル工場災害中職工ノ死傷總數ハ百八十六人ニシテ内死亡男五人、女三人ナリ。之ヲ前年ト比較スル＝總數＝於テ三十二人、死亡＝於テ七人ノ増加ナリ。殊ニ女三人ノ死亡ハ本年九月二十一日ノ暴風雨ノ爲倒壊工場ノ犠牲トナリタルモノナリ。

## 職工扶助

昭和九年中業務上負傷シタル職工ニシテ健康保險ノ給付以外ニ工場法＝依リ工業主＝於テ扶助シタル金額ハ三千三百三十六圓ニシテ前年＝比較シ九百四十圓ノ増加ナリ。

## 職工貯蓄金

昭和九年十月一日現在＝於ケル職工貯蓄金ハ二十八萬四千六百四十三圓ニシテ中郵便貯金九萬六千六百十三圓、銀行預金五萬四千八百十圓、工場預金十三萬二千六百五十五圓、其ノ他千六十五圓ナリ。而シテ之ヲ前年＝比スレバ五萬六千六百二十二圓ノ増加ヲ示セリ。尙之カ貯蓄金ヲ管理スル工場ハ百八十三工場ニシテ貯蓄職工ハ九千九百五十四人ナリ。

## 勞働者災害扶助法適用事業及勞働者

昭和九年中勞働者災害扶助法適用事業總數ハ二百八ニシテ中土石砂鑛採集事業四十四、土木建築工事八十六、交通及運輸事業五十二、貨物積卸業二十六ナリ。而シテ之カ使用勞働者數ハ七千五百四十二人ニシテ内土石採集事業四百五十八人、土木建築工事五千八百八十六人、交通及運輸事業九百二十八人、貨物積卸業九百七十人ナリ。

## 原動機

昭和九年末＝於ケル工場及原動機取締規則＝依リ取締原動機ハ總數七千七百二十二、總馬力四萬三千九百七十七馬力ニシテ前年ト比較スル＝原動機一千五百八、馬力＝於テ一萬三千二百九十七ヲ何レモ増加セリ。

## 健康保險

### 被保險者

昭和十年三月末ノ管内政府管掌健康被保險者ノ總數ハ三萬三

千八百八十三ニシテ本年度内＝新＝雇入其ノ他ノ原因＝依リ資格取得(増)セルモノ一萬九千九百六十三人、解雇其ノ他ノ原因＝依リ資格喪失(減)セルモノ一萬三千九百九十一人ニシテ差引前年度＝比シ五千九百七十二人増加シタリ。

## 工場、事業場及事業數

昭和十年三月末＝於ケル健康保險關係工場事業場及事業ノ總數ハ一千二百六十七ニシテ前年度＝比シ百七十三増加シタリ。工場ノ大部分ヲ占ムルハ染織工場ノ九百六十一ニシテ總數ノ七割六分ニ相當シ此ノ被保險者數三萬一千五百九十四人總數ノ九割三分ニテ大半ヲ占ム。最モ僅少ナルハ飲食物工場四ノ被保險者十三人ナリ。

事業場ハ金岡山六、石炭山二、其ノ他非金岡山ニアリ此ノ被保險者ノ總數ハ七十五ニシテ任意包括被保險者ヲ使用スル事業數ハ八アルノミナリ。

## 標準報酬

被保險者ノ報酬日額＝依ル標準報酬等級ハ三級ノ者(日額四十五錢以上)最モ多ク七千五百四十八人ニシテ總數ノ二割二分ニ相當シ、次デ四級(日額三十五錢以上、六十五錢未満)ノ七千六百二十二人、二級(日額三十五錢以上、四十五錢未満)ノ五千九十九人、五級(日額六十五錢以上)ノ四千九百十三人ノ順序ニシテ最モ少キハ十六級(日額二圓七十五錢以上)ノ一人ナリ。而シテ之カ平均日額ハ男八十三錢、女五十七錢四厘ニシテ男女總平均日額ハ六十四錢五厘＝當リ前年度末＝比シ七厘方高騰ヲ見タリ。

## 保險給付

昭和九年度中＝於ケル保險給付ノ總件數ハ十萬三千八百二十一ニシテ之ニ要シタル費用中本廳拂ノ分ノミニテ十三萬七千七百八十四圓アリ。(外ニ政府直接支拂＝係ル醫療費本廳分約二十三萬九千圓アリ。)件數、日數及費用額共被保險者數ノ増加ニ伴ヒ遞増セルカ個々ニ其ノ内容ヲ檢討スルトキハ前年度＝比較シテ本年度ハ傷病死亡關係給付ハ増加セルニ分婉關係給付ハ減セルノ現象ヲ呈シ即チ傷病關係給付(療養給付、療養費、傷病手當金、埋葬料費)件數及費用額(療養給付ヲ除ク)ヲ總件數及費用額＝比較スルトキハ前年度＝比シ夫々1%及11%ヲ増加セルニ分婉關係給付(分婉費、助産手當、出產手當金)件數及費用額＝於テハ0.8%及6.4%ノ減少ヲ來タシ前年度ト反對現象ヲ生ゼリ。療養給付中件數ノ最モ多キモノハ胃加答兒ノ一萬二千三十六件ニシテ以下感冒一萬一千六百六十三件、眼及附屬器ノ疾患七千七百六十六件(結膜炎、角膜炎ノ類)腸カタル及下痢七千二百二十六件、急性氣管支炎五千二十七件ノ順位ニシテ總數九萬六千六百件前年度＝比シ八千八百件増加シタリ。此ノ療養日數ノ總數ハ一百四萬三千八百四十二日ニ達ス。埋葬料(費)ノ支給件數ハ四百八十件ニシテ前年度ヨリ百三十八件ヲ増シ中最多キハ肺結核ノ百三十件、以下消化器疾患(含腹膜炎)八十二件、肺炎四十六件、肋膜炎四十四件等ナリ。